

外為印刷の歴史

株式会社 外為印刷

1.創業 50 余年の経験と知識、進化する技術への対応

当社では、創業以来積み重ねてきた経験と知識を受け継ぎ、めまぐるしく進化する技術への対応に努めてまいりました。創業 50 余年の歴史は、お客様にご満足いただける製品づくりの歴史でもあります。

1-1 設立の経緯

第二次世界大戦後、日本経済は統制下におかれましたが、次第に統制も緩和され、1949年12月、民間貿易が再開、国際経済社会への復帰が実現いたしました。しかし、外国との熾烈な競争に対処するためには、世界経済情勢や各国の諸制度の調査、研究及び外国為替貿易管理法令の普及が緊急の課題でありました。

このため、内外に対する広報事業の活動を側面的に協力する団体が必要であるとの認識が高まり、旧大蔵省をはじめ、各政府機関、日本銀行の指導・協力のもと 1950 年に財団法人外国為替貿易研究会が誕生し、主に日本銀行発行の通牒便覧や出版物の印刷を手掛けてまいりました。

この後、情報化時代の幕開けを迎え、定期刊行物や資料報告書などの増加により財団内部での対応が困難になったため、1956 年 9 月に印刷部門を独立させ、活版・謄写印刷として有限会社外為印刷所を設立しました。



株式会社外為印刷 外観

1 - 2 発展期

1950 年代中頃から 1970 年代初めの日本は高度経済成長に入り、ますます印刷の需要が高まりつつありました。

当時の外為印刷は、金融関係の出版物や各銀行の帳票類などの生産が主流となっており、その印刷方法は、活字を組み合わせて作った版(活版)で印刷する活版印刷でした。鉛を活字鑄造機の炉で溶かして鑄型に流し込み、活字を造る鑄造、版を組むためにあらかじめ使う活字だけを用意しておく文選、その後、適切な活字を選択し、インテル(行間の空き量を調節するために使う詰め物)などとともに原稿に従って並べる植字工、印刷工、印刷後インクを落とし、活字ごとに版をバラバラにして片付ける解版などの職人達が多数在籍しており、業績は急速な伸びを見せていました。

1970 年代初めには、当時主流となってきたオフセット印刷機も導入され、活版印刷機とともに外為印刷の印刷部門の両輪となりました。

1987 年 10 月には、内部組織の拡充や人員の増加をはかり、より一層のニーズに応える体制に移行す